

編集後記

2011年3月11日から6年が経ちます。あの東日本大震災や東京電力福島第1原子力発電所事故からの復興は未だです。これから何十年もの時が必要な、人類が初めて経験する困難が待っています。何かを諦めてしまわないようにしなければなりません。

この時期は、毎年雪について思いを巡らします。昨年暮れに北海道は数年に一度の大雪見舞われました。新千歳空港では約6,000人ものひとが空港内で一夜を過ごす事態となりました。そんな季節がめぐる山々の積雪も春を待っています。

今回の資料集では、携帯トイレ使用促進について話題を集めました。長年の懸案であった美瑛富士避難小屋トイレ問題は、行政(環境省、道、森林管理局、地元自治体等)と山岳登山関係者が協力、協働して携帯トイレシステム導入試行を行っている報告です。また、同じく長年の懸案だったトムラウシ南沼汚名返上プロジェクトが始動することは、大変嬉しいことです。携帯トイレの話題については、その他に利尻山、アポイ岳、早池峰山、屋久島からの報告を紹介できました。

また、ご苦労が続く黒岳バイオトイレの運用状況、次世代に伝える日高・幌尻岳の山岳環境問題、羊蹄山の土壌処理方式の山岳トイレの様子、10数年が経過した富士山での様々な山岳トイレのこと、北アルプス・岳沢小屋の尿処理方式、四国・剣山の山岳トイレのことも紹介できました。

北海道や全国のいろいろな山域での情報や皆様の活動の様子を紹介し続けることは、私達の役割となり、活動の励みとなっていました。本資料集に寄稿頂きました皆様、お忙しいなか誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

この18回目の資料集を、例年通り皆様のお手元に届けることが出来る喜びと共に、少しでもお役にたてるようにと願っています。

さて、第2回フォーラムから担当してきました資料集編集発行も、今回の第18回目をもって結びと致します。始まりがあれば、いずれ終わる時もきます。今後は山のトイレを考える会のホームページを皆様から頂いた情報発信の場とする予定です。

長い間、本当にありがとうございました。

(小枝 正人)